

令和 8 年 7 月 8 日（水）京都市立松尾中学校 保健室

～保護者もご覧ください。学校HPにも掲載しています～

プール・海などで水にふれる機会が増える季節となりました。水遊びやレジャーは楽しい時間である一方で、水難事故のニュースが多く取り上げられていることも忘れてはいけません。水難事故の多くは、「これくらい大丈夫」「慣れている場所だから心配ない」といった油断や、ほんの少しの気の緩みから起こっています。

また、水の事故は大きな声が出せず、静かに進んでしまうことがあるため、周囲が気付きにくいという特徴があります。自分の命を守るためには、一人ひとりが水の危険を正しく理解し、安全に行動することが大切です。



水難事故から自分の命を守りましょう

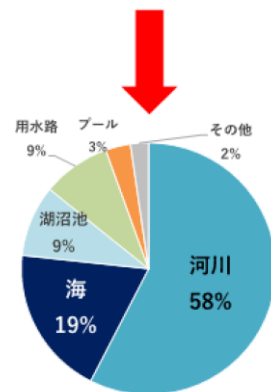
右のグラフは、中学生以下の子どもがどのような場所で水難事故にあっているかを示したものです。

グラフを見ると、**水難事故の58%が「川」で起きていること**が分かります。海やため池・プールと比べても、川での事故が特に多いことが特徴です。松尾中校区は、近くに桂川・西芳寺川・一ノ井川・東一ノ井川などありますが、**市内の河川は遊泳禁止です。**

「見慣れている場所だから大丈夫」と思いがちですが、川は流れが急に速くなったり、水の深さが急に変わったりするなど、見た目では分かりにくい危険があります。雨の後は水かさが増えたり、流れが強くなったりして、いつもとは全く違う状況になることもあります。

こうした事故を防ぐためにも、川に近づくときは常に危険があることを意識し、安全な行動を心がけることが大切です。

（中学生以下）
子どもは「河川」での
水難事故が最多



中学生以下の子どもの
場所別死者・行方不明者数
(H15-R6)
資料元「水難の現状」より作成

参考資料 国土交通省



↑水難事故防止アニメーション（国土交通省）

リバーアドベンチャー
～川に魅せられし者たち～
河川での具体的なリスクとその
対処法を紹介する動画です。
約8分で終わりますのでぜひ
見てみましょう。

子どもの河川水難事故防止に向けたポイント

こどもに知って欲しい3つのポイント（+引率者）

河川水難事故防止に重要な、上位事項を整理



参考資料 国土交通省

河川だけが危険ではありません

水難事故は河川だけでなく、海やプールでも起こります。

海では、波や岸から沖へ流れる強い流れによって気づかいうちに沖へ流されてしまう危険があります。見た目が穏やかでも、場所によっては流れの強さが大きく異なるため、「浅い場所だから大丈夫」と油断してはいけません。

また、プールでは滑りやすい場所での転倒やふざけた行動によって命に関わる大きな事故が起こることもあります。学校での水泳学習においても、安全に配慮しながら授業を行っています。水中でふざけるような行動は決してあってはなりません。さらに、体調がすぐれない状態で活動に参加すると、急に気分が悪くなり、事故につながる可能性があります。一人ひとりの危機感を持った行動がとても重要です。

水辺では楽しい時間を安全に過ごすために、「自分は大丈夫」と過信せず、命を守る行動を心がけましょう。